

日本建築工学会学会賞「技能賞」を受賞した小野寺浩さん(60)。1969年に株式会社奈良屋(本社山目、小野寺正洋代表取締役、社員60人)に入社、以来今日まで44年間、タイル張り工として活躍してきた。その腕前は誰もが認める「一流」。

同社は岩手県代表として技能五輪全国大会に15年連続で出場し、金賞7回をはじめ銀賞、銅賞、敢闘賞など毎年のように数多くの入賞を果たしてきた。

さらに、隔年開催の国際大会にも日本代表として4度出場するなど、世界に通用する「タイル張り技能士」を輩出しており、高い評価を受けている。同大会に出場し、優秀な成績を取めた同社の若手技能士は、そろって「目標は浩さん」と答える。小野寺社長も「会社に欠かせない大事な戦力」と絶対の信頼を寄せている。

浩さんの技能の特筆すべき点は、仕上げの面の精度と水準の高さ。これは、卓越した技術に裏付けされた絶妙な調整能力によるもので、入社以来、全ての現場の施工記録を取り続けるなど、工夫を凝らし、努力を重ねた賜物だ。現場では、下地の精度や下地調整の段取りをはじめ暗黙知であるタイル施工の機微を、身をもって中堅・若手職人に伝えており、浩さんの下で腕を上げた職人は数え切れない。

施工時の工程管理と差配(段取り)も、大手ゼネコンや元請業者から評価されており、職長として、一関文化センター、岩手医大、岩手県立大、東北大など官公庁や学校をはじめ、マンションや商業建築物など数々の

身についた高度な仕上げ技能は  
厳しい指導があつてこそ。



建物の仕上がりの美しさを表現するタイル施工のプロフェッショナル

## 小野寺浩さん

Onodera Hiroshi 60 千厩町清田

現場を指揮した。

同じものが二つとない建設現場は全てが単品生産だ。どんな仕上げにするとか、この作業は誰を担当させるとか、さまざまなことを判断する能力が求められる。

貴重で高度な無形の技能とでも言ったらいいのだろうか。自ら体現することで、後輩にスキルやノウハウ

を伝えてきた。「継承することも仕事の一つ」と言い切る。さらに、「知識や技術以上に伝えたいことは時間の使い方。段取り一つで作業能率は変わる」とも。

日焼けした顔、中肉中背の鍛えられた肉体は、「還暦」とは思えない。道を究めた者だけが持つ、オーラがあふれ出ている。

**Profile** 1953年生まれ。69年(株)奈良屋に入社。02年から同盛岡営業所に勤務。現在は職長として現場を指揮。適切な指示と効率的な作業で年間100件以上を施工するタイル貼りのプロフェッショナル。千厩町清田在住、60歳



「職人氣質」を存分に漂わせる浩さん。インタビュー中に時々見せる柔和な表情から「男のやさしさ」が伝わってくる。厳しくも愛情の込められた指導で「プロのタイル職人」を育てている。

## CONTENTS 7月の目次

- 02 **巻頭スペシャル**  
両陛下が岩手訪問、被災者見舞う  
本市にもお立ち寄り。笑顔で帰途に
- 03 **「愛」な人 いちのせきを愛する人**  
小野寺浩さん 千厩町清田
- 04 **特集1 岩手・宮城内陸地震復興ドキュメント**  
「6.14」一関の今
- 10 **市役所からのお知らせ**  
農林産物の放射性物質濃度測定／勝部市長のお仕事百景 ほか
- 12 **まちのトピックス**  
一関・県トラック協会一関支部がステッカー作製／花泉・第10回ぼたん園ゲートボール大会／大東・大原公民館で「ふるさと絆コンサート」／千厩・磐清水地区シャフルボード大会・バドミントン大会／東山・B&G海洋センターオープン／室根・着物リフォーム教室／川崎・川崎にぎわいテント市／藤沢・第33回芸協さなぶり大会
- 14 **市民の広場**  
笑顔でGood(小山結麻)／ふれーふれークラブ(一関一高附属中サッカー部)／公民館さございん。(摺沢公民館)／キッズ写真館
- 16 **「縁」結びを支援します**
- 17 **特集2**  
古里を再生した四半世紀の愛と絆 **森は海の恋人**
- 22 **健康コーナー**  
健康情報／元気のひみつ(小岩葉子)／健康塾(千田貴之)
- 24 **施設だより**  
博物館／図書館／文化センターだより／掲示板 ほか
- 26 **お知らせ**  
募集／催し・講座／相談／お知らせ ほか
- 30 **百年目の寿**  
佐藤ツタ子さん／川嶋まさよさん／吉田チャヤさん／高橋志とよさん／金野トキヨさん／山崎カツノさん／藤野スエヲさん／吉田タカ子さん
- 32 **PICK-UP**  
川崎エンジェルス／室根S・B・C／小学生卓球
- 34 **NEWS HOTLINE**  
米、豪州から高校生らが市を訪問／千厩高写真部生徒の作品が県高等学校総合文化祭などで入賞／一関地方中学校総合体育大会／女子野球「一関ガールズ野球クラブ」
- 36 **わたしの夢**  
佐々木芽衣さん 厳美小6年



大原公民館に集まった地域住民らに手を振られる天皇陛下と笑顔を向けられる皇后さま

## 【巻頭スペシャル】 両陛下が岩手訪問、被災者見舞う。 本市にもお立ち寄り。笑顔で帰途に

天皇、皇后両陛下は7月4日、東日本震災の被災地を訪問するため岩手に入り、5日まで津波被災地などを訪問し、被災者を励まされました。両陛下は遠野市、住田町、大船渡市、陸前高田市を訪問された後、5日午後4時20分ごろに本市大東町に立ち寄り、大原公民館で休憩を取られました。同公民館には地域住民ら約300人が集まり、横断幕を掲げ、日の丸の小旗を振りながら歓迎しました。この場で、勝部修市長は本市の沿岸被災地の後方支援につい

て「復興まで相当の時間を要します。被災地に隣接する自治体として今後も寄り添っていきたい」と述べました。これに対し、皇后さまからねぎらいの言葉を掛けられました。地域住民らに手を振る両陛下のお姿に菅原輝子さん(78)「大原」は「お二人ともお元気何よりです。これからは健やかに過ごしてほしい」、小山昭一さん(80)「沖田」は「感無量。私は陛下と同じ年齢です。これから頑張ります」と感激していました。

約500人の市民が日の丸の小旗を振って出迎えたJR一関駅には、午後5時40分ごろに到着沿道から歓迎の声が上がると、両陛下は何度も振り返って笑顔で手を振られました。ホームでは勝部市長、達増拓也知事らが敬意を表し、感謝しながら出発を見送りました。



2



4

3

1 大原公民館で横断幕を掲げて歓迎する地域住民  
2 日の丸の小旗を振って歓迎するデイサービスセンター大東の利用者と職員  
3 JR一関駅東口に向かう両陛下  
4 JR一関駅東口で沿道の市民に手を振られる両陛下